紫明の窓

発行：京都鞍馬口医療センター
編集：広報委員会
2019年2月　第8号

独立行政法人地域医療機能推進機構
京都鞍馬口医療センター
〒603-8151　京都市北区小山下総町27番地
TEL　075(441)6101代表　FAX　075(432)0825
URL　http://kyoto.jcho.go.jp

ノーベル賞と薬

京都鞍馬口医療センター
薬剤科長　佐原敏之

2018年のノーベル賞医学・生理学賞を京都大学の本庶特別教授が受賞されました。受賞理由は、負の免疫制御作用の阻害による新しいがん治療法の発見です。その薬はいま話題のニボルマブ（オプジーボ）です。同時受賞のアリソン先生はイピリムマブ（ヤーボイ）です。

このノーベル賞、薬に関連した功績で贈られたのは意外にも少ないのです。前回でこそ、記憶に新しい2015年の大村先生らによる抗寄生虫薬での功績でした。その前は、ご存知ですか。1988年β遮断薬やH2拮抗薬などの功績まで遡ります。

多くの優れた薬がこの間に世へ送り出され、治療成績の向上はもとより多くの命を救ってきたはずなのですが。ちなみに、平成29年度だけで日本国内の医療用新医薬品承認は105品目でした。（医薬品医療機器総合機構より）

「くすり」という読みは、「苦去り」から、そして「薬」という漢字は、「並び生えた草」と「くぬぎ（諸説ありますが、寮に通じ病気を終わらせる意）」の象形から、成り立ったといわれています。苦を取り去り、病気を終わらせる「くすり」、「薬」がこれからも生まれることを願わずにはいられません。

医師紹介

第八回は、井上 麻美先生を紹介します。

平成28年4月より耳鼻咽喉科部長として赴任し、3年弱が経過しました。

実は、社会保険京都病院時代の平成18年4月から平成19年12月まで医員として勤務しておりましたので、10年ぶりの出戻りです。ですから、以前から居られる先生をはじめ職員の方々、そしてずっと外来に通っておられる患者様から、「お帰りなさい」と言って頂き、懐かしく温かな気持ちで診療を開始したのを覚えています。

当科は永く2人診療体制でしたが、現在は1人診療体制となってしまい孤軍奮闘中です。平成29年度の手術室で行った手術は、耳科手術6件、鼻科手術37件、扁摘アデノイド手術34件、喉頭微細手術4件、頭頸部手術21件でした。1人診療科ですので、頸部手術に関しては大学や関連病院の先生方を招聘し、特に甲状腺悪性腫瘍、およびその頸部郭清術に力を入れて行っています。一人でできる手術の代表格である鼻科手術は、アレルギー性鼻炎の鼻閉改善手術から難治性の好酸球性副鼻腔炎の手術まで幅広く行っています。鼻は術後の管理が重要ですが、それを経て「鼻が通るって、こんな状態だったのですね。」と笑顔で言って頂けた時は、手術をした甲斐があったと思える瞬間です。

水曜日の午後は、カロリック検査、ENG検査を中心とした平衡機能検査や、言語聴覚士の協力のもと、嚥下内視鏡検査を行っています。日本人の死亡原因の3位を占める誤嚥性肺炎は、老年性嚥下障害から生じます。嚥下機能が改善し、少しでも口から食事をとって頂けるように、評価を正しく行い、リハビリテーションの計画を立てます。平成29年度は16例の嚥下機能評価を行いました。

また、平成29年7月より睡眠時無呼吸症候群に対して、歯科・口腔外科のいびき外来と連携協力し、口腔内装置の効果判定や、入院下での精密PSG検査の後CPAP治療を行っています。そして、平成30年7月に補聴器適合判定医師研修会を修了したため、平成31年1月より月曜日に補聴器外来を開始しました。　難聴によるコミュニケーション障害は、うつ病や認知症の発症リスクを高めます。補聴器は脳をトレーニングして慣れていかないといけない機械ですが、適切にフィッティングすることで、社会から孤立しかけていた方の再参加の後押しになると思いますので、ぜひご相談ください。

私は、患者様とのコミュニケーションを特に大事に診療を行っています。患者様に選んでいただける医療を目指して、今後も頑張ってまいりますので宜しくお願い致します。

当院のリハビリテーション科

リハビリテーション科では現在2名の言語聴覚士(Speech-Language-Hearing Therapist：ST)が在籍し、入院患者様を対象に摂食嚥下障害や言語・コミュニケーション障害に対する言語聴覚療法を実施しています。その対象の多くは摂食嚥下障害で、病気や加齢などによって口・喉の運動機能やそれらを司る脳からの指令が滞り、食べ物を認識して口に運び咀嚼して飲み込むという一連の流れのどこかが障害されるものです。

言語聴覚療法では、低下した機能を改善する訓練や、食事形態・姿勢などの指導や環境調整を行い、食べる楽しみを取り戻せるよう支援します。他職種との連携にも力を入れており、具体的には耳鼻咽喉科医師のもと嚥下内視鏡検査（VE）を実施し、嚥下障害の程度や原因の評価、リハビリの効果確認を行っています。他にも栄養サポートチーム（NST）に参加し、栄養状態の悪い患者様に対して、食事内容や嚥下機能に合わせた食事形態について提案を行っています。

日頃業務を行う上で特に大切にしていることは、入院中だけでなく退院後も、安全に、楽しみとしての食事を続けられるよう支援することです。そのために、退院後の生活環境を常に考えて食事形態やリハビリの内容を決めるよう心掛けています。

また退院時には、医療ソーシャルワーカー（MSW）や訪問看護ステーションと連携して退院後の食事環境を検討しています。

入院当初は十分に食べられなかった患者様が、リハビリを続けるうちに徐々に回復し、「おいしい」と笑顔で食事される様子を見るとやりがいを感じます。また退院後ご本人やご家族様から自宅での様子を伺い、「この前家族と外食してきました」といった声を聞くと大変嬉しい気持ちになります。

今後もより多くの患者様に食べる喜びを味わっていただけるよう、研鑽を積んでいきたいです。

リハビリテーション科 ST

～医院紹介～

医療法人社団都会　渡辺医院
渡辺西賀茂診療所

昭和60年10月先祖から受け継いだ西賀茂の地に妻が渡辺循環器科医院を開業したのが全ての始まりでした。鞍馬口病院も社会保険京都病院と名前を変え今また現在の鞍馬口医療センターに変わり昔の名前で復活しています。

府立医大を卒業し40年以上が経ち昔の鞍馬口病院の姿も懐かしく脳裏に浮かびます、祖母も父も母も兄も孫もその時々に入院でお世話になりました。大学病院にいたときバイトで行った事もあります。中規模の病院らしく地域に溶け込み親しみの持てる病院であったような気がします。

一方当法人も常勤医師7名非常勤医師3名の診療体制で診療を行う医療機関に成長しました。内科、循環器科、皮膚科、泌尿器科、糖尿病代謝内科、神経内科、リハビリテーション科、緩和ケア等を外来診療から訪問診療更に24時間365日の往診体制で診療しています。認知症、心不全、呼吸不全、神経難病から癌末期まで基本的に依頼された患者さんをお断りする事はありません。誠心誠意治療しケアし外来、在宅、入院（勿論鞍馬口医療センター）とこのトライアングルで患者さんを守って行くのが我々の使命だと感じています。

詳しくはホームページ
http://www.miyakokai-kyoto.com

ホームページはこちらから▶▶

フェイスブックはこちらから▶▶

第4回 JCHO地域医療総合医学会に参加して

歯科・口腔外科部長　長谷川 彰則

平成30年11月16日・17日、TKPガーデンシティ品川およびJCHO本部研修棟において第4回JCHO地域医療総合医学会が行われました。今回のメインテーマは、「今、JCHOに求められるもの～絆の継承とリノベーションへの挑戦～」です。JCHOが2014年4月に新たな道程を歩み始めてから5年近くが経過しました。長谷川は、第1、2、4回と計3回のJCHO地域医療総合医学会に参加して、発表もさせていただきました。当院からも看護部、リハビリ科、栄養管理室、薬剤科、検査科などから毎回多数が参加されています。JCHO全職員数28,449人、全国57病院から400題を超す発表が寄せられ、学会の規模としては結構なものが有りました。特に普段接することの少ない他職種の方々の演題や運営など事務職の方々の演題もあって、医科・歯科の専門学会と違った総合学会として新鮮な気持ちになります。医局からは島崎院長、坪内先生、長谷川の3名の参加でした。今回は「再発乳がん患者に認められたmTOR阻害剤が原因と考えられる口腔粘膜炎の1例」という演題でポスター発表を行い、改めて、がん治療・周術期における口腔ケアの重要性について力説させていただきました。

懇親会では、尾身茂理事長がJCHOの重要な使命である「地域医療、地域包括ケアの要として、超高齢社会における地域住民の多様なニーズにこたえ、地域住民の生活を支える」を熱弁され、2019年から始まる次期中長期目標・計画を立案・遂行する上で様々な絆の継承とイノベーションを基盤としたリノベーションへの挑戦を紹介されるなど、JCHO全体としての大変熱い盛り上がりを実感いたしました。

稲庭うどん、きりたんぽ、はたはた、比内地鶏、いぶりがっこ、日本酒と秋田ならではの料理が勢揃いした会場近くの居酒屋で、看護部のお姉さま方と盛り上がったことを最後に付け加えさせていただきます。

部署紹介

手術室・中央材料室

当院では、年間1600件程の手術を行っており、主に外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科・口腔外科の症例を実施しています。

麻酔科医が5名着任していることから殆どの症例を麻酔科管理で実施しており、患者様にとっては手術後の疼痛コントロールに対しても十分対応されているため安心して手術を受けて頂けます。

また、2015年10月より術前外来も週1回開始し、入院前から関わることで安全な医療を提供する一助になっていると思います。

外科・整形外科は毎日手術を実施しています。外科は主に腹腔鏡で手術を行っており、夜間・休日も臨時手術に対応出来る体制が取られています。

整形外科はスポーツ整形手術に多く携わっており、京都市内だけでなく府内や府外からもお見えになっています。鏡視下手術に際しては4Kシステムを導入したことから画像も清明で患者様への説明もわかりやすくなったと思います。

看護の面でも手術を担当する看護師が術前・術後訪問を実施し、少しでも不安を和らげるよう日々、患者様に関わっています。

私たちは、チーム医療を大切に安全で安心な看護が提供できるように心がけ、これからも頑張っていきたいと思っております。

手術室　看護師長

次回予告

第60回市民公開講座

平成31年3月10日（日）を予定しております。

担当／小児科医師、薬剤師

鞍馬口カンファレンス

日時：2019年2月21日（木）
19:00～20:30
場所：京都ガーデンパレス

一般演題　19:00～19:30

座長：京都鞍馬口医療センター 副院長
村頭　智 先生

「骨髄異形成症候群に対する
ダルベポエチンαの使用経験」

京都鞍馬口医療センター 内科部長
淵田　真一 先生

特別講演　19:30～20:30

座長：小川医院 院長　小川欽治 先生

「消化器疾患最前線」

京都鞍馬口医療センター 内視鏡センター長
消化器内科部長
半田　修 先生

新入職医師紹介

（平成31年1月1日付）

①経歴
②専門分野
③趣味

ミナミ　マサタカ
南　昌孝
整形外科医師
①京都府立医科大学卒 京都府立医科大学大学院卒業予定（H31）②整形外科（肩・肘など上肢、スポーツ）③野球、ゴルフ

ガバタ　ユウスケ
蒲田　勇介
泌尿器科レジデント
①金沢大学卒
②泌尿器科一般
③音楽鑑賞、ギター演奏